

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

新しい時代に対応できるよう、思考力・判断力を身につけ、心豊かな人間性を育む学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切に、教育理念「人をつくる」に基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 すべての教育活動において、きめ細かい指導を行い個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤や他者を思いやる心を育成する。
- 3 学校行事や部活動への積極的参加を促し情操面を豊かにし、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。

2 中期的目標

【1】 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア) 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
- イ) 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
- ウ) 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。
※ 教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」の目標値は4.2以上とする。

(2) 生徒のニーズに対応したクラス編成

- ア) 生徒の多様なニーズに対応し、令和3年度より新たに3年コース(発展文理クラス・発展探究クラス)として新しい教育活動を実践する。
また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。
- イ) 発展文理・発展探究クラス共に3年後の進路実現はもちろんのこと、探究活動を通して主体的な姿勢を育み自ら夢や目標を達成する意欲を高める。
 - ・ 発展文理クラスは応用的な内容まで掘り下げた授業を展開する一方で、学習のみならず何事にも深く追求する姿勢を育む。
 - ・ 発展探究クラスは週に1単位「総合的な探究学習(G-pro)」の時間を設け、主体的に課題解決に取り組む活動を通して、目標や夢を持ちその実現に向けて学習意欲や行動力を高める姿勢を育む。
※ 生徒評価アンケートにおける「満足度」の目標値は4.2以上。(令和4年度 4.0) 向上できるように努力する。

(3) 進路指導

- ア) 生徒が、自ら夢に向かう進路実現ができるように また、主体的により良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。
- イ) 自分の進路について主体的にまた積極的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。
- ウ) 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、生徒・保護者との面談を大切にしながら進路相談や進路支援を行う。個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路の探究、相談や支援を行う。
※ 生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」の目標値は4.2以上。

【2】 学習面において時代の変化に対応した、「主体的な学び(探究)」を実践し、きめ細かい指導を通して生徒自らの夢や進路を実現するため確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア) 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。
- イ) 授業に創意工夫を行い、ICT機器(タブレット)を積極的に利用し、効果的に分かりやすい授業を行う。
- ウ) 基礎学力の向上をめざすため、放課後学習・休暇中の講習や活発な自習室活動を実施する。
- エ) 探究活動(発展探究クラスの「探究」授業含)を通して、生徒自らが課題に向けて考え、協働する力を養い、夢の実現に向け、学習意欲や課題解決能力を高める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」の目標値は4.2以上。(令和4年度 生徒4.2 保護者3.9)と保護者の満足度には努力が必要である。
引き続き目標値を超えるよう努力する。

(2) 人権教育

- ア) 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいのある無にかかわらず、多様性を尊重する障がい者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。
- イ) いじめ等を未然に防ぐため各学年、担任による日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
- ウ) 学年毎にテーマを決め、人権教育を行う。
- エ) 12月の人権週間には人権講演を実施する。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」の目標値は4.2以上。(令和4年度 生徒4.4 保護者4.0)と評価が向上しているが、保護者の評価は目標値を下回った。令和5年度には目標値を達成する。

【3】 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて主体性を持った豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア) 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
- イ) 生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも継続的に取り組む。
- ウ) 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施する。日常生活での基本的なマナー及び公共施設や交通機関でのマナーの向上に努める。
※ 生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を守らせる指導」の目標値は4.2以上。(令和4年度 生徒4.3 保護者4.0)引き続き努力する。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア) 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識をもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。
 - イ) 情報モラル講演会などにより、スマートフォン、タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。
 - ウ) 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。
※ 教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」の目標値は4.0以上。(令和4年度 4.4)であり、昨年同様であるが、保護者の評価の向上に努力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」の目標値は4.2以上。(令和4年度 保護者3.9)昨年より下降している。保護者の評価向上に努力する。

(3) 学校行事・部活動や探究活動

- ア) 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
- イ) 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にする。
- ウ) 全クラスで取り組む探究活動、発展探究クラスでの「探究(G-pro)」授業を充実させる。また、文化祭・体育会では、生徒会を中心に自主的に活動できる機会にする。
※ クラブ活動や行事の目標値は4.1以上。クラブ活動(令和4年度 生徒4.3 保護者4.0)行事(令和4年度 生徒4.3 保護者4.1)と高評価である。次年度もこれを維持する。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア) 生徒が抱えている問題に対して、支援コーディネーターを中心に生徒相談係が一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。
- イ) 保護者、ICP(臨床心理研究所)と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。
※ 生徒評価アンケートでの「個人面談等の満足度」の目標値は4.0以上。(令和4年度3.8)昨年同様努力が必要。令和4年度年度には目標値に達したい。

【4】 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア) 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
- イ) 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。
※ 保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和4年度 3.7)と昨年同様その評価は低い。令和5年度は目標値を目指したい。
※ 生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」の目標値は4.0以上。(令和4年度 3.7)と前年度より下降しており、令和5年度改善に努力する。

自己評価アンケートの結果と分析〔(令和5年度)2023年11月実施〕	学校協議会からの意見
<p>評価項目:教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法:各項目について、5段階評価で行う 5:大変そう思う 4:どちらかといえば思う 3:普通 2:あまり思わない 1:全く思わない</p> <p>○全体評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒 4.3・保護者 4.2 と昨年に比べ少し高評価ではあるが、引き続き分析をしっかりと行い、これからも良い評価を目指す。 <p>○学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省提唱の「生きる力」を育む教育に向け、取り入れた主体的・対話的で深い学びであるアクティブラーニングや ICT を利用した授業により、生徒の授業に対する取り組みの評価は、教員 4.1、生徒 4.2 となっている。教員は新学習指導要領により深く理解し、生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。 <p>○生徒指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行いました。教員の自己評価は 4.2 と昨年同様高評価となっている。より一層、子供たちの基本的な生活や活動を援助できるよう努力したい。 ・社会の変化により、価値観の多様化が進んでいる。それに伴い、人権意識がより高まり、個々が生活しやすい社会が目指される。そんな中、「いじめの対応」についてそれぞれの事象が背景・個々の性格等、一つ一つのケースが異なるため、教員の対応にも多面的な見方が必要とされる。教員自身の自己評価は 4.3 と昨年より 0.2 ポイント上昇した。教職員はチームとなり対応に努力し、一人ひとり問題に対して真摯に向き合う姿勢を大切にしている。生徒の評価は 4.0 だが、保護者から見た評価が 3.8 と目標を下回っているのは、日直面談や教育活動の内容などが、うまく共有できておらず、情報共有量が少ないこともあり、満足できていないからと思われる。今後も引き続き、教職員の研鑽を重ねたい。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は社会性、協調性を養うとともに、理念のテーマである「実践躬行」に結びついている。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動及び人間関係の項目は、教員の評価が 4.4 といずれも高評価である。 <p>○学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営・学校経営について、昨年に比べ、教員による自己評価は 4.0 と向上した。学校の置かれる状況に理解が広がりつつある。教員間の相互理解のもと、私学人として少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう今後も努力を続けたい。 ・学習に関する評価では、教員の自己評価はほぼ4.0以上と高い。しかしながら、「学習の遅れている生徒への支援」については 3.7 と昨年度より 0.1 ポイント下降した。少子化や多様化に伴い、学習に意欲が持ちにくい生徒の数も増加傾向にある。教員が一人ひとりの生徒の実情に合わせて生徒への学習支援に努力し、環境改善や校務のスリム化に努めたい。生徒の実態に合わせ、より良い指導ができるようにする。 ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については探究教育や人権教育など計画的に実施しているが、自己研鑽や研修、またオンライン研修などへの参加は依然として少ない状況にある。また、研鑽内容の共有などの機会が持てず、教員の評価も少し向上しつつも 3.7 と低い。中学校は校務が多岐にわたるため、校務の整理を引き続き課題とし、研修への参加機会を広げることや、教員相互の授業見学など各教員の資質向上を目指し、積極的に自己研鑽を進めていきたい。 <p>【分析】</p> <p>今年度は、通常の学校教育活動に戻り、すべての行事を通常実施することができた。コロナ禍を通して、ICT教育など変化への対応も加速することができた。また、行事の見直しも引き続き行っており、生徒が主体的に活動できるよう、さらなる工夫を継続する。</p> <p>生徒・保護者の学校評価もいくつかの課題は残すが、概ね 4.0 に近い評価を得ることができ、日常への感謝を生徒とともに感じるとともに、当たり前を大切に次年度の一層の向上に努めたい。</p> <p>ICTを活用した教育や生徒主体型の行事改革など、PDCAを繰り返し、今後も、教育目標の達成に向けて努力し、より満足いただけるよう教育の質を高めるため、再考の必要な項目や評価の低い項目に対し注視し、改善の対象としたい。</p> <p>学校目標</p> <p>目指す学校像として「変化が加速し、多様な課題解決に対応できるよう、思考力・判断力・表現力を身に着け、心豊かな人間性を育む学校をめざす」という掲題のもと教育活動を行っていきけるよう、伝統を重んじながらも、改革、改善や進歩が必要な事項を改め、向上への努力を続けたい。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう、全職員も努力し、取り組んでいきたい。</p>	<p>「生徒のニーズに対応した教育活動」</p> <p>3年時に文理クラスに検定や外部模試(五ツ木)を推奨されているが、探究クラスにも同様に案内がある方が良い。</p> <p>「進路指導」</p> <p>3年時に「進路説明会」を開催されているが、1,2年に対しても早期の進路情報の提供を検討して欲しい。</p> <p>「教科指導」</p> <p>授業参観をしたが、1人1台のタブレットを効果的に使用し、グループ学習による学び合いなど、アクティブラーニングの実践により学習の定着を図り、効果を上げていることは評価できる。</p> <p>反面、家庭において、学習のスタイルが変わり、親から見えにくいという側面もある。</p> <p>考査前などに勉強会・質問会など開かれているが、参加に消極的な生徒に対してのアプローチにも工夫が必要と考える。</p> <p>「人権教育」</p> <p>「日直面談」や「仲間づくりアンケート」など、いじめ防止や、人権意識涵養に効果が大きく、良い取り組みである。今後も継続を希望する。</p> <p>併せて、学校での指導だけでなく、保護者への理解の徹底や強化が必要だと感じる。</p> <p>現行の人権教育に加え、LGBTQなどマイノリティに対する理解や支援など、外部講師を招へいするなどし、多様性についての理解をより深められるよう指導を計画して欲しい。</p> <p>「危機管理・情報教育」</p> <p>生徒が1人1台のタブレットを持ち、また大半が家庭でスマホを所持する時代になり、SNS上でのトラブルがますます心配される。情報モラル講演会を年1回行っているが、情報機器(スマホ、タブレット等)については、保護者向けにも開催するなど、危機管理について情報を共有すると同時に、家庭では保護者の管理下であるという認識を持ちたい。昨年同様、保護者向けにタブレットの使用方法などの講座を開いて欲しい。</p> <p>「学校行事・部活動・探究活動」</p> <p>部活動において、保護者への連絡体制に各部で若干差がある。連絡の徹底に向け、「部活アプリ」を活用するなど、検討して欲しい。</p> <p>行事においては、平常時に戻る中、独自の多彩な取り組みを実践できたことは評価できる。</p> <p>「生活指導」</p> <p>制服規定において、多様なバリエーションが選択できるのは、生徒の嗜好や体調に合わせることができ、評価できる。</p> <p>「PTA活動」</p> <p>PTAとして学校行事への関わりがほぼ平常時にもどり、達成感があるが、今後、体育会での参加者募集の方法など、検討の余地は残る。</p> <p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価</p> <p>学習面全般(学習意欲・授業内容)での自己評価は軒並み高いが相変わらず「学習の遅れがある生徒への支援」については低い。遅進者対策はされているように見受けられるが、多忙さからか、消極的な生徒へのアプローチなど、まだ不十分との自己評価に繋がっていることが考えられる。</p> <p>○ 結果</p> <p>建学の精神「報恩感謝」に則り、生徒に寄り添い、丁寧な指導をしており、学習指導や行事等においても、情報機器も駆使しながら最大限の取り組みをしてきたことも一定の評価を得た。</p> <p>計画的な進路指導についても評価は高いが、満足することなくよりきめ細やかな支援を目指したい。</p> <p>継続してきた探究活動により、課題発見・解決する能力の向上に繋がることへの一定の理解は得ているが、より一層理解を深められるよう努めたい。</p> <p>他にも、指摘された細かい課題について、今後問題点を整理し、次年度に向け改善し、より求められる学校づくりに向け努力したい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価
令和5年度

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 建学の精神・教育理念・教育方針に基づいて教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する</p>	(1)私学の独自性	<p>ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。</p> <p>イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深める。</p> <p>ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。</p>	<p>ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践目標を4.2とする。</p> <p>イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等をわかりやすく説明する。(令和4年度生徒 3.8 保護者 4.1)</p> <p>ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。また、宿泊行事、社会見学など多彩な行事を通じて教育方針に基づいた活動を実践する。(令和4年度生徒 4.3)</p> <p>イ、ウの目標は4.2とする。</p>	<p>ア. 教員の建学の精神・教育理念の理解が定着してきている。(○教員 4.4)</p> <p>イ. 教員がよく理解し、それに基づいて教育を行うことができたが、生徒の評価はまだ満足の域に達してはいない。話題に触れる機会を増やし、より丁寧な説明をしたい。(△生徒 3.9・○保護者 4.1)</p> <p>ウ. 生徒指導部は毎月月間目標を設定し、教育方針の啓発に努めることができた。(○生徒 4.2)</p> <p>(1)について概ね高評価で、次年度もこれを維持する。</p>
	(2)生徒のニーズに対応した教育活動	<p>ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。</p> <p>イ. 発展探究クラスは、「総合的な探究学習(G-pro)」を取り入れ、探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進路を自ら実現する。</p> <p>ウ. 発展文理クラスは、日々の確認テストや学習目標の設定を通じて、主体的に応用的な内容まで学ばせ、よりハイレベルな進路実現へのニーズに対応する。</p>	<p>ア. 授業評価を検証し、改善し実行する。目標値を4.2以上とする。</p> <p>イ.ウ. 発展探究・発展文理の2つのクラス編成による、新しい教育活動への移行が完了する。新カリキュラムは令和3年度開講であり、それぞれのクラスの理解に努める。(令和4年度 生徒 4.0 保護者 4.0)</p> <p>それぞれの学年の満足度目標値を4.2以上とする。</p>	<p>ア. コースの特徴を理解し、授業評価を検証し、改善し実行できているかについては努力が必要である。(△教員 3.9)</p> <p>生徒、保護者ともイ、ウの全てのコースについての取り組みについて理解し満足している。(○生徒 4.1・保護者 4.0)</p> <p>(2)は、新クラス制度への移行が完了の年となった。教員もまだ模索部分もあり、自己評価が下降しているが、情報交換を十分にしながら、改革に努力したい。</p> <p>反面、全般的にそれぞれの生徒・保護者の満足度が満足の域にあることは、それぞれの現場での努力の表れかと思われる。今後も理解に努める。</p>
	(3)進路指導	<p>ア. 生徒が、自分自ら夢に向かう進路実現ができるように また、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 自分の将来について主体的に考え、そのための進路を選択できる力を育む。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。</p>	<p>ア. 生徒の将来を見据え、探究活動を通じて自己発見や進路情報の提供や進路ガイダンス(令和4年度生徒 4.1 保護者 3.8)を行う。目標は4.2以上とする。</p> <p>イ. 探究活動を通じて、自ら考え、自己肯定感を高めつつ、進路選択できる力を養成する。</p> <p>ウ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。(令和4年度は生徒・保護者 3.8) 4.0以上を目標とする。</p>	<p>ア. 情報化社会が進む昨今、新しい形の進路ガイダンスに挑戦しているが、低学年時からの情報提供に努力が必要である。今後も生徒・保護者が欲しい情報を早い段階から提供できるように一層の努力が必要である。(○生徒 4.1・△保護者 3.8)</p> <p>イ. 探究活動を通じて生徒の主体性を引き出す努力をしているが、より具体的に進路選択につなげたい。(○生徒 4.1・△保護者 3.8)</p> <p>ウ. 進路相談は昨年に引き続き高評価であるが、保護者の評価に応えられるよう、より一層の努力、向上を目指す。(◎教員 4.5)</p> <p>(3)の進路指導は中学校の要であり、これからもデータなどを整理・分析し、進路面談に役立てたい。</p>

<p>(1)教科指導</p>	<p>ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。</p> <p>イ. ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指し創意工夫をする。</p> <p>ウ. 学力の向上と定着をめざすため、早朝学習・放課後学習(自習室活動)・休暇中の講習を実施する。</p> <p>エ. 自らの課題に向けて考え、協働し、自己肯定感や学習意欲を高めるために探究活動を実施する。</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習や AL を取り入れ、より一層の充実を図る。目標を 4.2 以上とする。(令和 4 年度 教員 4.2)</p> <p>イ. 教員による授業への創意工夫を行い、ICT機器の有効活用を通じ、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.2 以上とする。(令和 4 年度教員 4.2) 生徒・保護者による「授業は分かりやすいか」には (令和 4 年度 生徒 4.1 保護者 3.8)との開きがある。原因の分析を行いその手立てを実践するためにも両者の目標値を 4.2 以上に設定する。</p> <p>ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。 令和 4 年度教員 3.8 と評価が下降した。教員による生徒の学力向上への取り組みは、令和 4 年度 生徒 4.2 保護者 3.9 教員 4.2 で、保護者の評価向上に努力する。生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲は 4.2 を目標とする。</p> <p>エ. 探究活動を通じて、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現し、様々なことに興味・関心が持て、意欲が得られるようになることを目標とする。(令和4年度 教員 4.4)</p>	<p>ア. 主体的・対話的で深い学びによる新しい学習形態も定着してきている。シラバスに沿った指導についてはより教科内での研究と情報共有が必要である。(○教員 4.1)</p> <p>イ. 分かりやすい授業の展開については、昨年に比べ評価は向上しているが、保護者評価は生徒と比べまだ低く、目標値に達していない。(○生徒 4.2・△保護者 3.9・教員 4.3) 評価向上のためには、個々の教員による授業研究を推し進め、自己研鑽を推奨するなどし、情報を共有していく。また、ICT リテラシーの向上も目指す。</p> <p>ウ. 生徒の学力支援に対する教員評価は 3.7 と評価が低くとどまった。(△) 生徒の教員の努力に対する評価は、4.2 と一定の評価を得ているが、保護者は 3.9 とやや低い。教員の学習への取り組みについては 4.2 をクリアできた。(○) 教科指導について、生徒一人ひとりの弱点は多岐にわたり、保護者の満足には到達していないが、引き続き、個々への対応を丁寧に行い、学力向上に向けて意欲を伸ばすよう努めたい。</p> <p>エ. 探究活動が生徒の成長につながるかについては教員の手ごたえがある。今後も生徒の成長を図っていきたい。(○ 教員 4.3)</p>
<p>(2)人権教育</p>	<p>ア. 「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。</p> <p>イ. いじめ等の予防、早期発見のため、各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。</p> <p>ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。</p> <p>エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。</p>	<p>ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しているが、(令和4年度教員4.3)であり4.2以上を目標とする。</p> <p>イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切かについては 令和4年度 生徒4.0 保護者3.8 とまだ保護者の評価は低い。特に日直面談を充実させる。目標は4.0以上とする。</p> <p>ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践する。(令和4年度4.1) 4.2以上を目標とします。</p> <p>エ. 全学年、および各学年の人権講演会や道徳的な行事については 令和4年度生徒4.4 保護者4.0 と生徒の満足度も上昇した。 現在の人権教育を継続し、目標を4.2以上とする。</p>	<p>ア. 教員は学校生活すべての活動を通して人権教育を行っていると考えており、その点で評価できる。(◎教員 4.5) 実際に人権意識を高めているかについても目標をクリアできた。(○教員 4.2)</p> <p>イ. 教員のいじめ対応について、面談やアンケートにより未然に防ぐようにしているが、努力課題でもある。(○生徒 4.0 保護者 3.8) より一層生徒の声を聴きやすくする環境づくりに努める。</p> <p>ウ. 教員の人権意識を高める教育については、引き続き努力を続け、時代のニーズに合った活動を模索する。(○教員 4.2)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事に関して、やや満足度が低下している。より丁寧な人権教育に向け努力を継続する。(○生徒 4.2 保護者 3.9 教員 4.1) 人権教育に関してはおおむね高評価であり、改善すべき点は検証し、綿密な計画を立て、実施する。 しかし、いじめに関しては、教員の努力とは逆に、保護者の満足に至らず、引き続き対応、研修を重ねる努力をしたい。</p>

<p>3 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	<p>(1)生活指導</p>	<p>ア. 個別の問題行動の対応にとどまらず、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。 また、生徒にとって過ごしやすい生活環境であるために規則の改訂にも積極的に取り組みます。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動を実施する。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじるは（令和4年度 4.0）と下降している。目標は 4.2 以上とする。 また、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導（令和 4 年度 生徒 4.3 保護者 4.0）と高評価である。引き続き 4.2 以上を目標とする。</p> <p>イ. （令和4年度 生徒 3.8 保護者 3.8 教員 4.2）である。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行ない、学校月間目標により、さらに啓発を行う。目標値は 4.0 以上とする。</p>	<p>ア. 規則を守らせる指導について教員の自己評価は努力課題であるが、生徒の評価は目標に達している。（◎生徒 4.2） 校則の見直しなど多様な価値観に対応する変革の時期であり、教員の指導にも工夫を求められるが、指導について教員の共通認識が少しずつできつつある。（○教員 4.0） イ. 生徒指導部と生徒会を中心に挨拶運動などの活動を続けている。コロナ禍以後の生活習慣の復活にまだ少し課題が残る。いっそうの啓発を続ける。（△生徒 3.9・保護者 3.8）</p>
	<p>(2)危機管理と情報公開</p>	<p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。 特に SNS、写真撮影等個人情報の公開の危険性、人権面での指導に力点を置きます。</p> <p>ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p>	<p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備（令和4年度教員 4.1）及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は（令和4年度 4.1）はどちらも良い評価である。 4.2 以上の目標とします。</p> <p>イ. 情報機器（スマートフォン・タブレット等）の正しい使い方では（令和4年度 生徒 4.2 保護者 3.6 教員 4.4）と保護者が生徒に対する信頼がまだ低いようだ。 4.0以上を目標とする。</p> <p>ウ. 情報公開については、保護者の満足度が下がった。（令和4年度 生徒 4.4 保護者 3.9） よりわかりやすい方法により 4.2 以上を目指す。</p>	<p>ア. 危機管理マニュアルの整備や学校安全対策は概ね高評価で、目標値に到達した。安全対策は重要であり、一層学校安全を意識したい。（○教員 4.2）</p> <p>イ. スマホ・タブレットなどの使用に関して、今年度も生徒と保護者の見解が大きく分かれている。ICT 教育が進む中、保護者が安心して生徒を信頼し、使用できるよう、情報モラル教育の充実を図る。（生徒 4.1・○保護者 3.7）</p> <p>ウ. ホームページの充実、SNS による発信に努力し、発信方法の整理により、保護者の満足度も向上しつつある。 （生徒 4.4・○保護者 4.1）</p>
	<p>(3)学校行事や部活動</p>	<p>ア. 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。 文化祭、体育会では生徒会を中心に、自主的に活動する姿勢を育てる機会にします。</p> <p>ウ. 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付けると共に、発展探究クラスでの「探究」授業を充実させます。</p>	<p>ア. 説明会やガイダンスなどで、部活動への参加を奨励する。 （令和4年度 生徒 4.3 保護者 4.0） 4.1 以上を目標とします。</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に考え、行動できる生徒を育てる。（令和4年度 生徒 4.3 保護者 4.1） コロナ禍の終息と共に向上傾向である。 4.2 以上を目標とします。</p> <p>ウ. 主体的に活動し、協働し、表現できる生徒を育てる。</p>	<p>ア. クラブ活動については、保護者の理解や評価が下降している。 時代に沿った活動に向け、課題を検証し、充実した活動に努力が必要である。 （生徒 4.2・△保護者 3.9）</p> <p>イ. 宿泊行事や体育会・文化祭は、形を変えて実施でき、高評価を得ている。常に新しい形を模索し、次年度も改革に臨みたい。 （◎ 生徒 4.3・保護者 4.3）</p> <p>ウ. 文化祭での全学年による探究発表など生徒が主体的に活動できている。（○）</p>
	<p>(4)課題を抱えている生徒への支援</p>	<p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。 担当を中心に主任、クラブ顧問など多くの教員で情報を共有し、対応します。</p> <p>イ. 問題解決の部署として ICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、生徒相談係を中心に、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっている。 （令和 4 年度教員 4.1） 目標は 4.2 とする。</p> <p>イ. 個人面談等の満足度は低い。（令和4年度 生徒 3.8 保護者 3.8）各教員に積極的に働きかけ、活性化を試みる。 4.0 以上を目標とする。</p>	<p>ア. 担任は日直面談を続け生徒の変化を見逃さないよう努力しているが、生徒・保護者の満足度はまだ低い。その目的を教員間で共有し、より丁寧な指導を目指したい。 （○ 教員 4.2 △生徒 3.9 △保護者 3.8）</p> <p>イ. 昨年より少し改善したが、まだ評価は低い。面談のあり方の再考し、更なる努力が必要である。（生徒 3.9・△保護者 3.8）</p>
<p>4 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献</p>	<p>保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。</p> <p>イ. 生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見るPTA活動はコロナ禍もあり（令和4年度 保護者 3.7）である。 コロナ禍以前の活発な活動に近づけるよう、より工夫をする。 目標値は 4.0 とする。</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は（令和4年度 生徒 3.7）である。学校生活での課題を見つけ、解決できるよう、アドバイスをする。 目標値を 4.0 とする。</p>	<p>ア. 通常の学校活動に戻ったが、今年度もPTA 活動に対する評価は低迷している。 PTA 役員の努力やアイデアにより最大限に活動をし、0.1 ポイント上昇はしている。さらに工夫を加え、新たな活動の企画に努力したい。（△ 保護者 3.8）</p> <p>イ. 生徒が主体的に参加する生徒会活動は活発になってきているが、まだ個々の生徒自身の活動としては評価は低い。 主体的な活動ができるよう、生徒個々への理解を深め、充実させたい。 （△生徒 3.7）</p>	